

東北地方 1 か月予報

(2 月 1 4 日から 3 月 1 3 日までの天候見通し)

平成 2 1 年 2 月 1 3 日
仙台管区气象台発表

<特に注意を要する事項>

期間の前半は気温の変動が大きいでしょう。

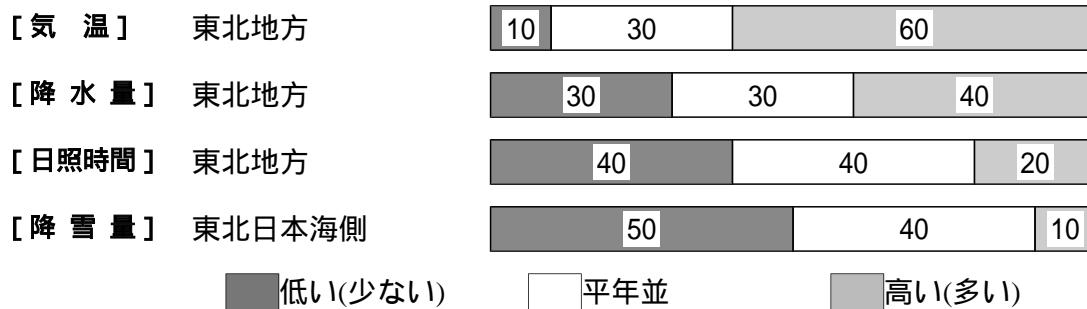
<予想される向こう 1 か月の天候>

向こう 1 か月の出現の可能性が最も大きい天候と特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。
東北日本海側は平年に比べて曇りや雪または雨の日が多く、東北太平洋側は平年に比べて晴れの日が少
ない見込みです。

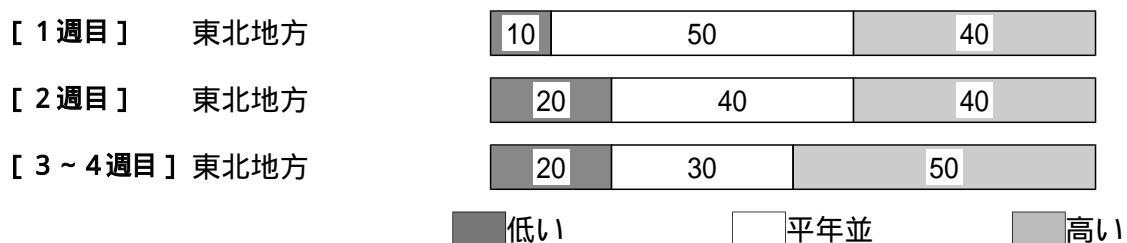
向こう 1 か月の平均気温は高い確率が 6 0 % です。日照時間は平年並または少ない確率がともに 4 0 %
です。東北日本海側の降雪量は少ない確率が 5 0 % です。

週別の気温は、1 週目は平年並の確率が 5 0 %、2 週目は平年並または高い確率がともに 4 0 %、3 ~
4 週目は高い確率が 5 0 % です。

<向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間、降雪量の各階級の確率 (%) >



<気温経過の各階級の確率 (%) >



<予報の対象期間>

1 か月 : 2 月 1 4 日 (土) ~ 3 月 1 3 日 (金)
1 週目 : 2 月 1 4 日 (土) ~ 2 月 2 0 日 (金)
2 週目 : 2 月 2 1 日 (土) ~ 2 月 2 7 日 (金)
3 ~ 4 週目 : 2 月 2 8 日 (土) ~ 3 月 1 3 日 (金)

<次回発表予定等>

1 か月予報 : 毎週金曜日 1 4 時 3 0 分 次回は 2 月 2 0 日
3 か月予報 : 2 月 2 5 日 (水) 1 4 時
暖候期予報 : 2 月 2 5 日 (水) 1 4 時

< 参考資料（ 平年並の範囲等 ） >

（ １ ） 30 年平均値（ 向こう 1 か月の平均気温、降水量、日照時間、降雪量と 1 週目、2 週目、3 ～ 4 週目の平均気温 ）

	気 温 ()	降 水 量 (mm)	日照時間 (時間)	降 雪 量 (cm)	気 温()		
					1 週目	2 週目	3 ～ 4 週目
青森	0.0	87.1	95.3	149	-1.0	-0.4	0.7
深浦	0.8	71.5	70.0	89	-0.2	0.4	1.4
むつ	-0.5	76.3	112.2	135	-1.5	-0.8	0.1
八戸	0.2	45.9	142.0	83	-0.8	-0.2	0.9
秋田	1.2	87.9	86.9	92	0.2	0.8	1.9
盛岡	-0.4	59.5	138.3	76	-1.4	-0.8	0.4
大船渡	1.8	61.0	144.9	26	1.0	1.5	2.3
宮古	1.2	73.3	156.0	59	0.4	0.8	1.8
仙台	2.7	53.2	155.7	28	1.9	2.3	3.3
石巻	1.9	48.0	164.9	23	1.1	1.5	2.6
山形	0.9	63.3	114.5	116	-0.1	0.4	1.7
新庄	0.1	119.4	76.7	188	-0.9	-0.3	0.8
酒田	2.4	99.1	81.8	85	1.5	2.0	3.0
福島	2.9	55.6	151.7	54	2.0	2.4	3.6
若松	0.8	61.5	109.3	120	-0.2	0.3	1.5
白河	1.6	48.6	158.2	43	0.7	1.0	2.3
小名浜	4.6	68.7	170.4	0	3.8	4.2	5.2

なお、気温、降水量、日照時間、降雪量の「平年並」の範囲は、地点ごとに幾分違いはありますが、下に示した地域平均の「平年並」の範囲を参考にして下さい。

（ ２ ） 1971 ～ 2000 年のデータに基づいた向こう 1 か月地域平均の気温、降水量、日照時間、降雪量の平年差（ 比 ）の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	気温平年差()	降水量平年比(%)	日照時間平年比(%)	降雪量平年比(%)
東北地方	-0.7 ～ +0.6	82 ～ 110	96 ～ 104	73 ～ 119
東北日本海側	-0.6 ～ +0.6	92 ～ 108	91 ～ 107	87 ～ 122
東北太平洋側	-0.6 ～ +0.6	72 ～ 118	98 ～ 104	63 ～ 116

（ ３ ） この予報期間の 1 週目、2 週目、3 ～ 4 週目の地域平均の気温平年差の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	1 週目	2 週目	3 ～ 4 週目
東北地方	-0.9 ～ +1.0	-0.9 ～ +0.8	-0.5 ～ +0.5
東北日本海側	-0.9 ～ +0.9	-0.8 ～ +0.8	-0.6 ～ +0.5
東北太平洋側	-0.9 ～ +1.0	-0.8 ～ +0.8	-0.5 ～ +0.5

< 参考資料（ 利用上の注意 ） >

（ １ ） 気温（ 降水量 ）等は、「低い（ 少ない ）」「平年並」「高い（ 多い ）」の 3 つの階級で予報します。階級の幅は、1971 ～ 2000 年の 30 年間に於ける各階級の出現率が等分（ それぞれ 3 3 % ）となるように決めてあります（ 気候的出現率と呼びます ）。

（ ２ ） 予報する確率の数値は、それぞれの階級が出現する可能性の大きさを表しています。予測資料の信頼性が大きい場合には気候的出現率から大きく隔たった 1 0 % 以下や 6 0 % 以上の確率を付けられますが、特定の階級を強調できない場合には気候的出現率と同じかそれと同程度（ 3 0 % 、 4 0 % ）の確率しか付けられません。

（ ３ ） 晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い（ 少ない ）場合は「平年に比べて多い（ 少ない ）」、また平年の日数と同程度に多い（ 少ない ）場合には「平年と同様に多い（ 少ない ）」と表現します。なお、単に多い（ 少ない ）と表現した場合には対象期間の 2 分の 1 より多い（ 少ない ）ことを意味します。

東北地方 1 か月予報解説資料

平成 21 年 2 月 13 日 仙台管区気象台

1. 出現の可能性が最も大きい天候

向こう 1 か月 (2 月 14 日～3 月 13 日) :

冬型の気圧配置は長続きせず、時々低気圧や気圧の谷の影響を受けるでしょう。東北日本海側は平年に比べて曇りや雪または雨の日が多く、東北太平洋側は平年に比べて晴れの日が少ない見込みです。期間の前半は気温の変動が大きいでしょう。

平均気温は高い確率が 60% です。

1 週目 (2 月 14 日～2 月 20 日) :

東北日本海側では低気圧や寒気の影響で雪または雨の降る日が多いでしょう。東北太平洋側では期間のはじめと終わりは低気圧の影響で雨または雪の降る日がありますが、その他は沿岸部を中心に晴れの日が多い見込みです。

なお、期間のはじめは発達する低気圧の影響で大荒れの天気となり、積雪の多いところではなだれのおそれがあります。

平均気温は平年並の確率が 50% です。

2 週目 (2 月 21 日～2 月 27 日) :

低気圧が数日の周期で通過し、通過後は一時冬型の気圧配置となるでしょう。東北日本海側は平年と同様に曇りや雪または雨の日が多く、東北太平洋側は平年に比べて晴れの日が少ない見込みです。

平均気温は平年並または高い確率がともに 40% です。

3～4 週目 (2 月 28 日～3 月 13 日) :

冬型の気圧配置は長続きせず、時々低気圧や気圧の谷の影響を受けるでしょう。東北日本海側は平年に比べて曇りや雨または雪の日が多く、東北太平洋側は平年に比べて晴れの日が少ない見込みです。

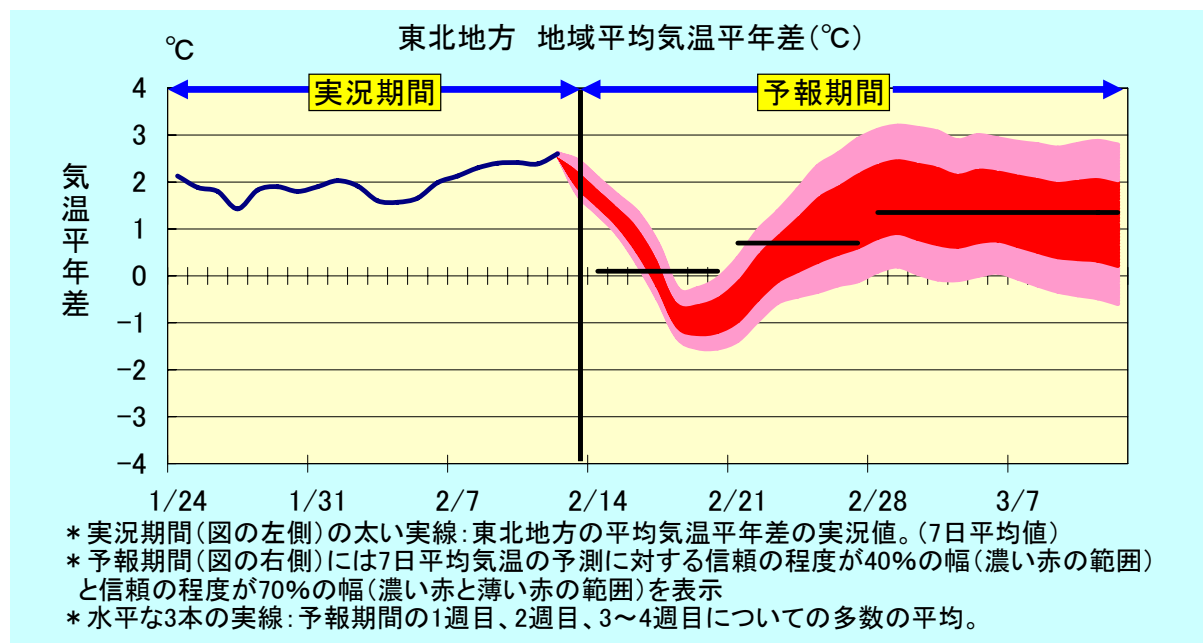
平均気温は高い確率が 50% です。

平年の晴れ日数

	向こう 28 日間	1 週目	2 週目	3～4 週目
東北日本海側	8.7 日	1.7 日	1.9 日	5.1 日
東北太平洋側	17.6 日	4.3 日	4.3 日	9.0 日

2. 東北地方の平均気温平年差の実況と数値予報による予測

数値予報による週別のアンサンブル平均気温は、1 週目、2 週目は平年付近、3～4 週目は平年を上回る予想となっている。その他の資料から 2 週目は平年並か高めに考える。

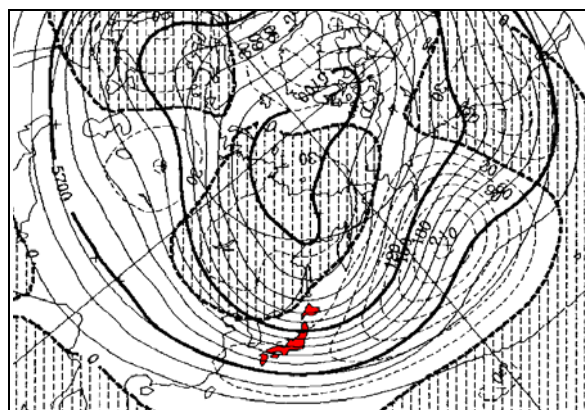


3. 1か月平均と1, 2週目の上空の大気の流れの予想 (500hPa 予想天気図)

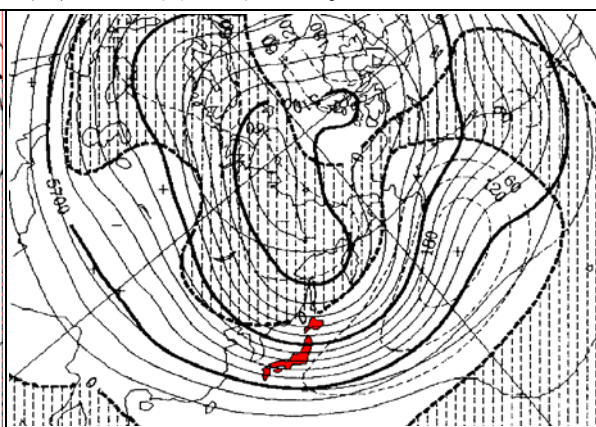
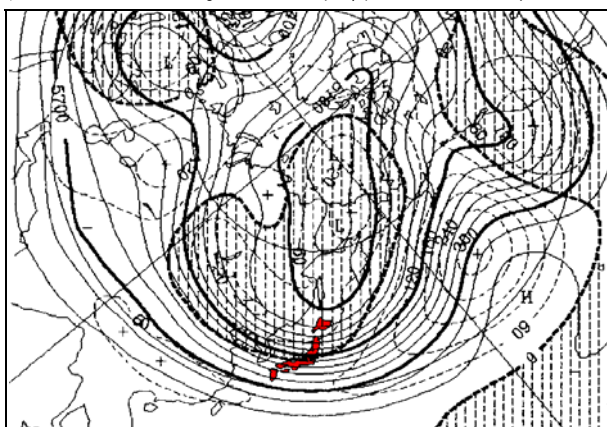
1か月平均: バイカル湖付近から東シベリアにかけて負偏差となるが、日本付近を含む中緯度帯は広く正偏差におおわれる。平年に比べ寒気の影響は小さく、高温傾向が予想される。また、西谷傾向で、低気圧や気圧の谷の影響を受けやすい見込み。

1週目: 極東域の高緯度に広がる負偏差が北日本にかかる。一方、北太平洋から日本の南海上にかけて正偏差となる。東北地方の偏差は小さいが、一時強い寒気の影響を受ける見込みで、気温の変動が大きいと予想される。

2週目: 極東域の高緯度に広がる負偏差が沿海州にかかるが、日本付近を含む中緯度帯は正偏差におおわれる。寒気の影響は一時的で、気温は平年並から高めの見込み。



1か月平均 500hPa 予想天気図
(図の見方は1, 2週目と同じ
ただし平年差の間隔は 30m 毎)



1週目平均 500hPa 予想天気図

2週目平均 500hPa 予想天気図

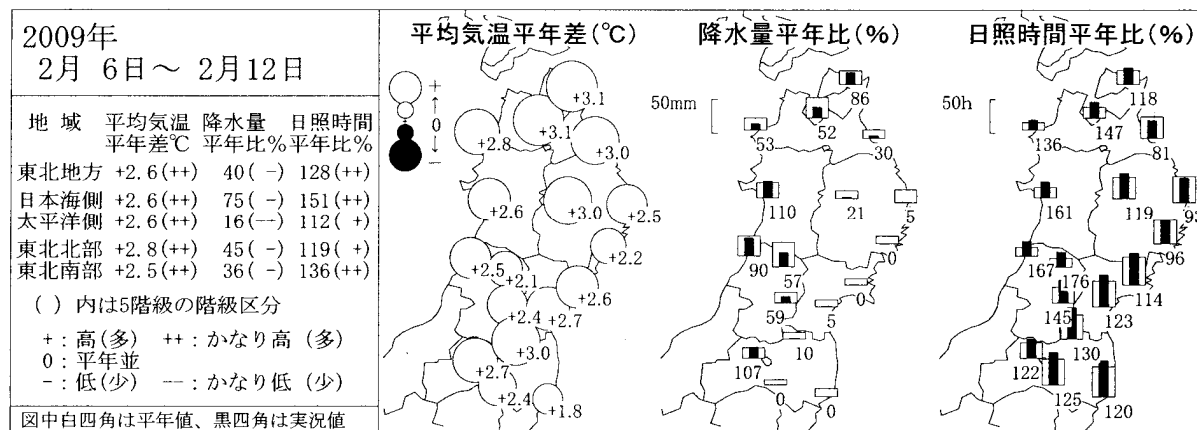
実線は、等高度線（間隔 60m）、点線は、平年差（間隔 60m）

陰影部は、負偏差で一般に寒気に対応する 白抜きは、正偏差で一般に暖気に対応する

4. 最近1週間（2月6日～2月12日）の天候の経過

この期間、低気圧や前線が短い周期で通過したが天気の流れは小さかった。また、低気圧の通過後は冬型の気圧配置となったが長続きしなかった。7日は寒冷前線の通過に伴って大気の状態が不安定となり、秋田県で竜巻による突風災害が発生した。8日は冬型の気圧配置が一時強まったため、宮城県で強風による被害が発生した。なお、東北地方への寒気の影響は小さく、気温はかなり高くなった。

平均気温は東北地方でかなり高い。降水量は東北日本海側で少なく、東北太平洋側でかなり少ない。日照時間は東北日本海側でかなり多く、東北太平洋側で多い。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差（比）